

令和6年度 自己点検評価報告書（保健科学部）

全体的な状況と評価

保健科学部は、大学の理念・目的の基に、豊かな人間性と高度な専門知識・能力を備えた人材の育成を図るとともに、保健医療分野における教育・研究・地域貢献の拠点として中心的な役割を担い、保健医療の発展に寄与することを教育研究上の目的としている。この目的を実現するため、保健科学部教職員が一丸となって日々の教育・研究活動及び社会貢献活動に自立的かつ機動的に取り組んだ結果、大学および法人が示す第三期中期目標の達成に向けて順調に進捗していると考えている。また、大学基準に沿った教育についても概ね良好な状況で行えていると考えているが、令和5年度に受審した大学認証評価を通じて得られた経験を基とした改善を進めている。

本学は小規模大学のため、特に、学生支援、教育研究環境整備、社会貢献、大学運営等については、学部・研究科の別なく大学全体として取り組んでいる。本報告書では、これら教育活動を中心に学部として自己点検評価した結果を報告する。なお、中期目標にそった全項目（教育を含む）の自己点検評価の詳細は年度ごと、中期計画期間ごとの自己点検評価結果（業務実績報告書）に記している。

教育活動（教育課程・学習成果・学生の受け入れ）

教育課程・学習成果・学生の受け入れに関する看護学科・臨床検査学科の自己点検評価は以下のとおりであるが、いずれの学科も、大学基準を満たした教育が展開できていると考えられる。看護学科・臨床検査学科いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っており、学部全体・看護学科・臨床検査学科いずれも、入学定員充足率、収容定員充足率は大学基準を満たしている。一方で、令和5年度に受審した大学認証評価を通じて、学科レベルにおける学生の受け入れ方針の充実の必要性を認識したため、その改善について令和6年度に検討を進め、令和7年度より使用する新たな学生の受け入れ方針を策定した。学生募集については来学型及びオンライン中継型のオープンキャンパス（年4回～5回）の開催や高等学校訪問及び出張講義、高校教員を対象とした大学説明会の開催など学生募集を含めた広報活動を積極的に行っている。

入試制度や選抜の評価については全学的な組織である入試委員会等を中心に評価が行われているが、看護学科、臨床検査学科共に国家試験の合格率が概ね高いレベルで維持されていることは、本学の卒業生による学位授与方針の達成に合致した学生の受け入れ方針に従った選抜が継続的に出来ている状況を間接的に表していると考えている。

令和6年度看護学科 自己点検報告書（案）

点検項目に対して、回答欄「はい・いいえ」のうち、該当するものを選択する。
回答欄「S・A1・A2・B」は、今年度を中心とした取り組みに該当するものを選択し、取り組みの具体的な内容等について記入する。 ※注 「S・A1・A2・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A1：従来通り効果的に取り組むことができた、A2：改善に取り組み始めた、B：改善することができなかった」を意味する。

教育課程・学習成果・学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい ・ いいえ

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい ・ いいえ

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい ・ いいえ

2.3 教育理念、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学科では、IR・評価委員会、R2カリ・改善グループ、技術教育・DX推進グループ、実習調整担当グループ、国家試験対策グループを今年度再編し、目標と行動計画を立案の上、教育理念を踏まえ、DPと教育課程が適切に関連性をもち編成され、実施されているかについて役割を分担して改善や検証をしている。検証の基盤として、教学マネジメント委員会から提供された学修成果・教育成果データを基にIRを行っている。また、各講座単位でもDP修得について検討し、その検討結果をIR・評価委員会が集約した上で、分析評価報告書として看護学科長から教学マネジメント委員会に提出している。分析評価で課題に挙げた項目は、次年度以降引き続き改善を目指すようにしている。これらの改善を進めたことから、前年度のA2の評価を今年度はA1とした。

※大学レベルでは、教学マネジメント委員会において、全ての学位プログラムの3つのポリシーの適切性や連関性について、3つのポリシーの策定、見直しの方針に従って検証がされている。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

学士課程カリキュラムポリシーの下、看護学科では、令和2年4月以降の入学生に対し、①入学後早期より看護学への関心を高めるため、「共通教育科目」、「専門基礎科目」と並行して「専門科目」のうちの基礎部分の学修を開始し、臨地実習は1年次から開始している。②専門基礎科目では看護実践の根拠となる確かな知識が修得できることを目指して、〔医療の基礎〕〔人間の身体と精神〕〔疾病の成り立ちと回復〕〔社会のしくみと健康〕に関する科目群を配置し、人間を多面的に捉えるようにしている。③専門科目では、基礎から応用・発展へと学修が進むように、〔基礎看護学〕を1・2年次に配置し、この学修を基盤とし、2年次～4年次に、人間の発達段階や健康レベル、看護を提供する場の特性別に〔小児看護学〕〔地域看護学〕等の各看護分野の科目を配置している。また、4年次には、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得するため、総合実習・看護研究等を置き、さらに看護教育・看護管理・災害看護分野のいずれかを選択して学修の発展を目指している。加えて、④学修の水準を段階的に向上させるよう系統的に構成すると同時に、各段階で、知識の統合、知識と体験の統合が図れるよう「看護アセスメントⅠ・Ⅱ・Ⅲ」等の統合科目の配置や教育方法の工夫を行っている。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

初年次教育で、医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を図り、2年次からは、看護実践の根拠となる確かな知識修得や人間の多面的な理解が段階的にできるように、基礎から応用・発展へと学修が進むような専門科目の系統的な配置を工夫している。3.1で記載したように、複数の看護領域のアセスメントを共有できる学習形態を取り入れ、看護アセスメントⅠ、Ⅱ、Ⅲを開講している。

また、DPに示されている「グローバル化に対応できる能力」育成については、その要素を各種科目に配置し、4年次通年の看護研究にてその能力育成を総括するとともに、DP

の意図を学年ガイダンスや各授業オリエンテーションにて学生に説明を行い、理解を促している。

3.3 授業期間の適切な設定がされていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

学則や規程に基づき、適切に実施している。

※授業期間：学則第13条および愛媛県立医療技術大学授業時限、授業時間及び授業期間を定める規程で適切に設定

3.4 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な設定に則り適切に運用し、単位及びその修得について明示の上、実施している。

※全学的な設定：授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する1単位当たりの学習時間：学則第26条で適切に設定

3.5 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

シラバスに授業科目の内容及び方法を明示することを遵守し、設定している。

3.6 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

国の「大学における看護系人材養成の在り方検討会」でのモデルコアカリキュラムで求められている「グローバル化に対応できる能力」「地域包括ケアシステムに対応できる能力」「多様化・複雑化・個別化した対象をアセスメントする能力」について、学科のAP、CP、DPに位置付けた上、授業科目の位置づけを行い、学生が修得できるようにしている。

3.7 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

AP を明示して入学者を受け入れており、入学後の早期から看護学への関心が向上することをねらい、1年次前期から2年次後期にかけて基礎看護学を配置し、1・2年次から看護の基盤を学修できるように設定されている。続いて、人間の発達段階や健康レベル、看護を提供する場の特性の理解を深められるように、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域・在宅看護学等が学修できるように設定されている。

3.8 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

1年次前期に大学で学ぶための基本的な学習スキルや学習態度を具体的な演習（グループワーク、ペアワーク等）を通して修得する初学者ゼミ、1年次後期に「人間を知る」「社会を知る」「自然を知る」の3領域における科学的思考の文章に親しみ、学問に臨む基礎的態度を養う「基礎ゼミ」を開講し、1教員が10名程度の学生を指導する体制を整え、スムーズに大学教育へ移行できるように配慮している。

3.9 教養教育と専門教育の適切な配置ができていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

1年次に、教養及び豊かな人間性の涵養と医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を目指し、教養科目を多く学修できるように配置している。併せて、看護学への関心の向上を目的に、1年次は教養科目との重なりが過多とならないように専門科目は8科目の配置に留め、2年次から本格的に看護学が学修できる配置としている。

3.10 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

3.1～3.9での記載の通り、教育課程・教育内容の適切な提供、カリキュラムの順次性・体系性の確保、授業期間、単位、個々の授業科目の内容及び方法の設定等について、学科

で適切に実施していると評価しており、教育課程の編成・実施方針に基づき学科にふさわしい授業科目の開設と教育課程の体系的な編成に概ね効果的に取り組んでいる。以上のことについては、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告し、同委員会から課題を指摘された場合には、学科が課題に対して検討や改善を行った上で、再び本報告書にて報告している。また、学科長は同委員会にメンバーとして参加し、そこで明らかになった課題を学科に持ち帰り、学科会、学科教授会で報告し、学科で課題に取り組むように連携している。

3.11 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

看護学への関心の向上と、保健医療福祉の多様な場における看護の対象の特性と看護職の活動の実際を知り、看護職の機能と役割の理解をねらい、1年次前期に基礎看護学実習Ⅰを配置し、様々な現場における看護従事者の実体験に触れ、将来の方向性を自身で考える機会を提供している。また、非常勤講師や教育協力者による現場に即した看護実践を聞く機会や、県内での看護職就職ガイダンスを学内で提供し、学生が自身の社会的及び職業的自立について考える機会を提供している。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学則第25条にて学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、1年間又は1学期についての履修制限について設定し、単位の実質化を図るための措置がされている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

はい ・ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

各講座や実習調整担当グループと教務委員会が連携を図り、教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守し、授業内容とシラバスとの齟齬がないように実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果は、各科目教員が確認し、DP 評価や授業評価を基に授業内容とシラバスの点検について実施している。また、教員による相互参観授業を実施し、参観した教員は授業担当者に対し、フィードバックを行っている。技術教育・DX グループでは、シラバスに基づき、DX 教材を使用した講義の参観を推進した。成績評価の基準については、より明確な示し方を引き続き検討する必要がある、前年度に引き続き今年度も A2 の評価とした。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

はい ・ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会の取り決めにに基づき、学生の学修状況に応じて、DP 等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを配布して周知している。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

はい ・ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

実習・演習ポートフォリオや DX 教材を活用した授業で、学生の主体的参加を促すような工夫をしている。また、アクティブラーニングを念頭に置き、授業形態にグループワークを取り入れ、多様な意見を聴き総括していく機会を多く設けている。さらに、学生が主体的に学修できるような、反転授業、グループでのシミュレーション教育やケースメソッド学習などを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

はい ・ いいえ

A2 : 改善に取り組み始めた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業時に事前課題、小テスト、ミニッツペーパー等を取り入れて、学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。さらに、ルーブリック等の設

定を推進し、学生の理解度を確認する取り組みを始めている。看護技術に関しては、実習・演習ポートフォリオを活用し、看護技術経験到達度の記載、調査を行うとともに、DX教材を活用して学生の理解度を確認しながら学習を支援している。学習の進捗や理解度に問題が生じた学生がいる場合は、教員間で情報共有し、継続した支援ができるようにしている。クラス顧問制度により、各学年に複数のクラス顧問を配置し、履修上の不安や困難を抱える学生との面談により、個別の学習進捗状況や理解度を把握している。理解度の確認については、DP とその学習効果や体系的なカリキュラムツリー・マップの学生への効果とも合わせて、より適した方法を引き続き検討する必要があり、前年度に引き続き今年度も A2 の評価とした。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

入学式前に 1 年次生対象のオリエンテーションを実施し、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DP の説明などについてガイダンスを実施し、在校生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように学科として実施し、2 年次以降も毎年ガイダンスで行っている。効果的な学習のために、授業以外の時間を活用できるように、DX 教材の授業外使用を推進している。加えて、クラス顧問制度を取り入れ、教務委員会と連携しながら、個別にも学年進行に添った授業の履修や留年生の授業履修に関する指導も行っている。学習状況の共有を円滑かつセキュアに行うための「学生カード」を新たに作成し、継続的な学習支援のための仕組みを構築した。また、国家試験対策グループの教員を中心にした看護学科全教員で 4 年生を対象に国家試験受験を念頭に効果的な学習方を指導できる体制をとっている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

授業での発話や具体的な質問、看護師国家試験模試結果などについて、随時フィードバックを行っている。演習や実習での記録に対しては、口頭もしくはコメント付記によって、タイムリーに学生の学びをフィードバックできるようにしている。各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、予習・復習の指導を行っている。さらに、DX 教材を活用した自己学習を周知する体制とその方法を検討している。

4.8 授業形態に配慮した1授業あたりの学生数を配慮していますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

授業内容や形態に応じて、学習理解を確保できるように、ゼミ形式や学年定員半数ずつの交互授業などを導入し、学生数に配慮している。実習においても、実習の状況に合わせて学生数を配慮している。

4.9 各学科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

(一部、A2:改善に取り組み始めた)

4.1 から 4.8 に示した通り、単位の実質化やシラバス内容や実施に関する措置、学生の能動的学習への促しや学習の進捗・理解度の確認、履修指導や適切なフィードバック等について学科として適切に行っていると評価しており、学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための様々な措置について概ね効果的に取り組んでいる。以上のことについて、全学内部質保証推進組織である教学マネジメント委員会に対して本報告書で報告を行い、課題があれば同委員会から学科に対して指摘が行われ、改善を求められている。学科は指摘された課題に対して IR・評価委員会を中心として検討や改善を行い、その結果についても本報告書で報告をしている。また、2024 年版学修成果・教育成果データを基に、DP 修得や教育の目標達成について分析を行い、学科長を通して教学マネジメント委員会に分析評価報告書として報告している。成績評価の基準と理解度の確認については、引き続き教学マネジメント委員会の助言を受けながら進める必要がある。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

単位認定においては「学生生活の手引き」II 履修等（履修案内、履修方法）に明記されている全学的な取り決めに則り実施している。その上でシラバスにおいて各科目の成績評価方法及び基準を明記、講義や演習など授業形態に応じて試験やレポート等によっ

て成績評価を行い、基準を満たしている場合に単位認定を行っている。

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

入学前の既修得単位等の認定においては学側第30条に基づき、科目責任者や教務委員会による審議を経て、教授会に諮った上、学長が、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修により修得した単位を含む。）を本学における授業科目の履修により修得したものと認定する。

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置は講じていますか。

はい ・ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

全学的な取り決めに基づき、実施している。成績評価に偏りがある科目がないように、成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性のさらなる確保に向けて取り組みを始めている。また、学生が成績評価に対して確認と異議申し立てができるよう、「学生生活の手引き」において「愛媛県立医療技術大学成績評価に対する学生の成績確認及び異議申し立てに関する取扱要領」を明記している。IRの結果から、学年別GPの分布を見ると1,2,4年生については1割弱の「可」の学生が存在していることと、3年生以外は「秀」が2割を越えており、優秀な学生確保の可否と併せて、成績評価の妥当性を検討する必要がある。加えて、成績評価の厳格性についても、学生へのより明確な示し方を引き続き検討する必要があることから、前年度に引き続き今年度もA2の評価とした。

※全学的な取り決め：成績評価の方法と基準はシラバスに明示した上で、講義や演習など授業形態に応じて試験やレポート等の結果で成績評価している。各教員が担当授業の成績評価を検証できるように、学修成果・教育成果データとして学科別GPA集計表を配付し、学科として検討を行っている。

5.4 卒業要件を明示していますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

卒業要件は学則第37条に明示するとともに、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、文面とともに卒業要件を口頭でもガイダンスを実施の上、ホームページ上

で明示している。

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的な取り決めの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価及び単位認定に関しては 5.1 から 5.4 にあるように全学的な取り決めに基づき、実施している。また、全学内部質保証推進組織等の関わりについては、特に、教育に関する内部質保証を担う組織として、運営戦略会議の下に教学マネジメント委員会を置いており、成績評価及び単位認定に関する適切性について、本報告書によって教学マネジメント委員会に報告している。

5.6 学位授与に関わる全学的な取り決めの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与に関わる全学的な取り決めは、教務委員会で取得単位等のとりまとめの結果を審議後に、教授のみで構成される教授会で卒業判定を行い、卒業認定および学位授与をしている。また、全学内部質保証推進組織等の関わりについては、学位授与の状況の適切性について教学マネジメント委員会でも分析している。このように教学マネジメント活動を通じて行われた教育の内部質保証については、本学ホームページを通じて社会に公表している。

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

はい ・ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）等を学習成果測定の指標として設定している。

※教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）：新入生アンケート、PROG

調査、学位プログラムとしての単位取得状況、授業評価アンケート結果、GPA 評価、DP アンケート、国家試験合格率およびカリキュラム・学習環境等評価アンケートの結果

6.2 6.1 の設定に基づき評価をしていますか。

はい ・ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

設定にしたがって評価し、全学的な取り決めに基づき学習状況を把握し、その結果をもとに授業改善等を行っている。

※全学的な取り決め：アセスメントプランに関し、教務委員会やFD委員会から報告された各結果を教学マネジメント委員会が学修成果・教育成果データとしてとりまとめ、学科に提供している。

6.3 ルーブリックを活用した測定をしていますか。

はい ・ いいえ

A2 : 改善に取り組み始めた

これまでも1年生からの演習や実習、4年次の看護アセスメントⅢ、総合実習、看護研究等でルーブリックを取り入れ、評価の観点を明確にした上で、学生と教員が相互に評価の達成度を確認し、評価の公平性保持に努め、間接的ではあるがDPの取得状況や学習成果を把握・評価している。一昨年度からの全学的なDP評価の取組みを受け、各授業単位でDPの取得状況や学習成果の把握・評価に取り組み始めている。ルーブリックを活用した測定については、ルーブリックそのものや適用範囲の評価を次年度も検討する必要がある、前年度に引き続き今年度もA2の評価とした。

6.4 学習成果の測定を目的とした学生調査をしていますか。

はい ・ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

FD委員会・教学マネジメント委員会が取りまとめたDPアンケート(授業・年間・卒業時の各単位)を学習成果の測定を目的とした学生調査として用いている。また、学科独自の取組みとして実習ポートフォリオや看護技術経験チェックシートを用いた看護技術経験項目の点検と評価、看護師・保健師国家試験の解答状況評価を行っている。これらの評価については、活用頻度等や経験達成度、解答状況を数量的に算出した後、学科会や学科FDの機会を通じて共有し、学習内容等の見直しにつなげている。

6.5 卒業生、就職先への意見聴取をしていますか。

はい ・ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

就職先について、実習や研修等の機会を活用して施設の指導者や管理者と本学の卒業生の学習状況および課題や就職後の成長について引き続き意見交換を行い、そこで得られた現場での意見等について学科会等で共有し教育への還元を行っている。卒業生については、既卒業生を対象とした DP 取得状況についてのアンケートの実現に向けて全学的な取り組みを学科として要望する。また、ホームカミングデー等の機会を活用し、既卒生の学びの状況や成長についての情報収集や共有は引き続き行っている。アンケート導入について学科としても引き続き注視する必要がある、昨年度に引き続き今年度も A2 の評価とした。

6.6 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

6.1 から 6.5 に示した通り、アセスメントプラン等に従って計測した結果等を、教学マネジメント委員会が FD 委員会や教務委員会と協働して学修成果・教育成果データとして取りまとめており、その提供を学科は受けている。また、その評価に関しては、各学科での分析、評価を教学マネジメント委員会が促しており、学科としての分析、評価結果は分析報告書および自己点検報告書として教学マネジメント委員会に提出をしている。その結果、学科に課題等がみられる場合は教学マネジメント委員会からの課題の指摘を受けている。なお、学科としては、教学マネジメント委員会から提供される学修成果・教育成果データの IR に加えて学科独自に行った看護研究等でのルーブリック評価や国家試験問題回答状況などの評価を、学科会や学科 FD にて共有・評価をしている。また、学科長が全学内部質保証推進組織（運営戦略会議、教学マネジメント委員会）の構成員として、同組織で学科の状況等を直接報告し、学科に必要な支援や指示を受けている。2024 年版学修成果・教育成果データにおける卒業時 GPA と学生の学修意識を示す伸長度アンケート結果で、全般的にはほぼ一致していたものの、DP⑦の GPA は高いが DP 伸長度は低いなどの一部の項目でやや差異が見られた点は、次年度以降も注視しながら評価していく。

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

6に記載したように学修成果の測定結果を分析しており、その結果で教育課程の内容や適切性の評価に用いている。具体的には学科に IR・評価委員会を設置して評価を行うとともに、各授業単位で DP アンケート結果等を活用し、シラバス内容を評価する必要性を学科で再度確認するとともに、DP の達成度に応じてシラバス内容に反映することを促した。報告については、学修成果や教育成果について自己点検・評価報告書や看護学科自己点検報告書を作成している。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

点検・評価結果に基づく改善・向上については、昨年度学位プログラム責任者主導による学修成果・教育の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の仕組みの強化として、学科に IR・評価委員会を再編した。7.1 での学習成果の測定結果をもとに学修成果・教育レポートおよび授業評価アンケート結果等に基づき、教育課程の内容や適切性の評価を継続していくとともに講座内での検討や各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、学科の取組みとして、学生の学習効果に貢献した授業方法等を学科 FD として共有する機会を設け、FD 委員会と協力して学位プログラム単位から検討し授業科目レベルでの課題を検討している。

8 学生の受け入れについて評価や必要な取り組みを行っているか。

8.1 DP の修得に相応しい入学者の確保ができていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた
(一部、A2：改善に取り組み始めた)

本学科の卒業生の各 DP 関連科目の GPA は全ての DP で高かったこと、卒業時の DP アンケートでは、学生自身が全ての DP で修得状況が良好であり、留年率が低いことから、DP 修得に相応しい入学者の確保が出来ていると評価している。4月1日時点の入学定員充足率は 1.00、収容定員充足率は 1.01 でいずれも適切である。また、国家試験の合格率は令和 6 年度も看護師 98.6%、保健師 100%と全国の合格率を十分に上回る結果であり、

学位授与方針の達成に合致した学生の受け入れができていることを間接的に表している。一方で、基礎学力の低下等、教育に苦慮する学生の増加に加え、入学した後に進路・職業選択への不安や心理的葛藤が顕在化する学生、心身の不調により学習に困難が生じ診療への接続が必要となる学生の増加を実感している。DP 修得のみならず国家試験合格への対応が引き続き必要であるとともに、受験前に、将来の職業選択や本人の特性を踏まえた進路指導がなされているかについて、高校との情報交換や連携を充実させることや、本学の理念に適った学生確保方針の検討が今後も必要である。

8.2 学生の受け入れに関する制度について評価・検討をしていますか。

はい ・ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

令和 6(2024)年度学校推薦型選抜については出願倍率 2.5 倍で前年度から 0.1 ポイント増加しているが、一般選抜前期日程は 2.5 倍で前年度から 0.4 ポイント減少している。全体の倍率は 2.9 倍であり目標倍率 3 倍に近づいているが、引き続き入学者の確保については検討が必要である。今年度は、学科の AP を見直し、入試項目についても AP との関連を検討して見直しをするとともに、少子化への対応として県内高校と連携等について意見交換をしている。また、学科会等で、国家試験模擬試験で点数が伸び悩んだり、学修支援が難しい学生が多くなってきている等の意見が出ており、国家試験対策グループとして教員 4 名を配置するなど、学生支援に従来よりもエフォートを要する状況についても報告されている。上項の入学者確保と併せて、学生受け入れに関する選抜制度についてもさらなる評価・検討が必要であることから、前年度に引き続き今年度も A2 の評価とした。

(2) 全学内部質保証推進組織から示された改善課題に対する対応状況

教学マネジメント委員会から示された課題「学修成果・教育成果の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の IR 機能の強化」に対して、学科における検証の仕組みとして、学科に IR・評価委員会、R2 カリ・改善グループを再編し、教学マネジメント委員会から提供を受けたデータの分析を強化した。昨年度から引き続き、学位プログラムの教育に関する分析や自己点検・評価について、教学マネジメント委員会から提供された 2024 年版学修成果・教育成果データを基に、各講座単位で読み取りを行い、その結果を IR・評価委員会が集約した上、分析評価報告書として、学科長から教学マネジメント委員会へ提出した。また、IR・評価委員会から学科内教員に対して、令和 5 年度授業評価アンケートおよび授業別 DP アンケート結果を授業レベルでも確認した上、シラバスや授業の改善に取り組むことや、GP 結果についても成績表を基に振り返りを行うように依頼を行い、授業科目レベルでの教育の質保証に努めた。次年度以降もアセスメントプランに

基づいた IR を継続的に行い、学修成果を可視化し、学位プログラム単位での検証を行っていく。

(3) 長所・特色 (学修成果の可視化に関する IR の結果を含むこと)

2023 年度は、国試合格率は看護師 98.6% (全国 87.8%)、保健師 100% (全国 95.7%) であり、就職進路内定状況 100%、留年率 1.7%と、2018~2022 年度と同様に全国的な状況から見ても好ましい結果で推移している。卒業時の GPA は 2.81 で、過去 4 年間とほぼ同様の水準であり、コロナ対策下でのオンライン授業や学内実習にも学習支援の効果が認められ、学びの質を担保できていたと考えられる。卒業時 DP 達成度アンケート結果からは、すべての項目について 92%以上の学生がおおむね達成したと回答しており、これらのことから、学位プログラムとしての教育の目標は概ね達成され、学びの質が担保されていると考えられる。加えて、実習・演習ポートフォリオや DX 教材を活用した授業を推進し、学生の主体的参加を促すとともに、理解度を確認しながら学習を支援している。また、新たに学生カードを導入し、より継続的な学生支援が行えるようにした。

教育課程や学習成果に関わる基本的なルールについては、全学的な取り決めに基づき実施できている。加えて、学科として看護研究等でのルーブリック評価や国家試験問題回答状況等の評価を学科会や学科 F D にて共有・評価するとともに、国家試験対策ワーキングを設置して、国家試験受験を念頭に 4 年生を対象に効果的な学習方策を指導するなどしている。

(4) 課題・問題点 (学修成果の可視化に関する IR の結果を含むこと)

GPA および GP についてのアセスメントプラン項目に基づいて分析した結果、教育課程や学習成果に関わる措置については、学科として概ね効果的に取り組むことができおり、大きな課題はないと言える。しかしながら、学年別 GP 分布の状況を評価した結果、優秀な学生を確保できているのか、もしくは成績評価が妥当であるかについても今後評価を行うことが必要と考えられる。

一方で、DP に関する学生の学習成果の適切な把握と評価に関しては、2024 年度の IR 結果で、卒業時 GPA と伸長度アンケートの結果はほぼ一致していたが、DP⑦に関して見られたように、一部の項目でやや差異があった。学科では、2024 年度から学年オリエンテーションや授業オリエンテーションで学生への周知を強化しており、次年度以降も継続的に確認する必要がある。また、DP とその学習効果や体系的なカリキュラムツリー・マップの学生への効果とも合わせて、引き続き評価する必要があると考える。

臨床検査学科 自己点検報告書

令和6年度 臨床検査学科 自己点検報告書（案）

点検項目に対して、回答欄「はい・いいえ」のうち、該当するものを選択する。
回答欄「S・A1・A2・B」は、今年度を中心とした取り組みに該当するものを選択し、取り組みの具体的な内容等について記入する。
※注 「S・A1・A2・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A1：従来通り効果的に取り組むことができた、A2：改善に取り組み始めた、B：改善することができなかった」を意味する。

教育課程・学習成果・学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい・いいえ

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい・いいえ

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい・いいえ

2.3 教育理念、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学科では、令和6年度に設置した教学評価委員会が中心となり、教育理念を踏まえ、教育課程が適切に編成され、実施されているか、教学マネジメント委員会から示された臨床検査学科の学修成果・教育成果データを基に IR を行い学科会で共有している。その検討結果は、報告書として臨床検査学科長から教学マネジメント委員会に提出している。また、臨床検査学科内で検討された課題は、教学評価委員会が整理し、各領域や各教員において改善に向けて取り組むように臨床検査学科全教員に共有され、取り組むこととして

いる。昨年度に課題の取り組みは引き続き行っているが、IR 強化のため今年度はより一層各教員でも取り組むべき課題を明確化した。

※大学レベルの取り組みについては、教学マネジメント委員会で学位プログラムの3つのポリシーの適切性や関連性、3つのポリシーの策定および見直しの方針に従って検証がされている。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

両学科共通の初年次教育として、大学生としての主体的な学び方や学習資源の活用方法を獲得できるよう「初学者ゼミ」や「基礎ゼミ」を設けている。また、科学的根拠に基づく実践を行うために「実践と研究」を設置している。また、臨床検査学科において医療を志す学生の初年次教育として、医療概論、臨床検査学概論を開講している。さらに、1年次～4年次まで、教育課程の編成・実施方針に基づき、専門基礎科目および専門科目において科目間連携を考慮して段階的に医学検査の基礎から応用へ学修できるように配置し、臨地実習では臨床検査技師の活躍する場の理解を深めるために病院以外の健診施設や研究所でも行っている。また、医学検査セミナーを開講し、最新の医学検査とその関連領域、様々な医療現場で必要とされる専門性を学ぶ機会も設けている。4年次には、知識の統合・発展ができるよう、医学検査診断学や医学検査研究を配置している。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

初年次教育で医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を図り、2年次からは、臨床検査学の基礎となる確かな知識修得や技術の理解が段階的にできるように、基礎から応用・発展へと学修が進むような専門科目の体系的な配置を工夫している。また、DPに示されている「医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために自らの能力を高める自己教育力」を育成するために3.1で示している医学検査セミナーや病院以外の施設における臨地実習Ⅱを開講している。また食品衛生監視員・管理者任用資格および甲種危険物取扱者の受験資格も得られるように、関

連科目を配置している。さらに臨床検査学の応用・発展として4年次通年の医学検査研究にてその能力育成を総括している。

3.3 授業期間の適切な設定がされていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学則第13条および愛媛県立医療技術大学授業時限、授業時間及び授業期間を定める規程に基づいて実施している。

3.4 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として1単位あたりの学習時間を学則第26条に設定しており、単位及びその修得について明示し実施している。

3.5 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

毎年度、DP評価および授業評価アンケート結果をもとに、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示している。

3.6 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

2022（令和4）年度臨床検査技師養成カリキュラムが改正され「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」で示されている国民の医療へのニーズの増大と多様化、チーム医療の推進による業務の拡大等により臨床検査技師の求められる役割や知識等の変化に対応できる力を学生が修得できるように、学科のAP、CP、DPに則って、授業科目の位置づけを行っている。

3.7 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

はい ・ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

入学後に早期から臨床検査学への関心が向上するように1年次前期から2年次後期にかけて臨床検査概論や検査の基礎に関する科目を配置することで、1・2年次から臨床検査学の基盤を学修できるようにしている。続いて、臨床検査学の知識・技術のほか、医療安全や検査管理等について専門的な理解を深められるように、形態検査学、生体試料分析学、感染・生体防御検査学、生理機能検査学、検査総合管理学等が学修できるように設定されている。

2021（令和3）年3月に臨床検査技師学校養成所指定規則の一部改正（タスクシフト/シェアに関連する臨床検査技師等に関する法律の改正も含む）があり、主な改正点である「臨地実習の充実」に伴う単位増や臨地実習到達度評価の実施内容の共有を行い、令和5年度の試行を経て臨地実習到達度評価を実施し、評価法を検討した。さらに実習施設を検討し実習先の拡充を引き続き行った。令和4年度改正新カリキュラムに求められている「チーム医療の推進による臨床検査技師の役割の拡大や検査機器の高度化、臨床検査技師の取り巻く環境の変化」に対応するための教育課程編成の必要性について更に理解を深めるとともに、これからの学生がこれらの能力を育成するために必要な指導内容について引き続き検討・確認した。

※臨床検査学科の教育内容設定の経緯：2021（令和3）年3月に臨床検査技師学校養成所指定規則の一部改正（タスクシフト/シェアに関連する臨床検査技師等に関する法律の改正も含む）する省令の公布があり、2022年4月に新カリキュラム改正に対応できるよう、2021（令和3）年度に臨床検査学科カリキュラム検討委員会で検討および協議を行っている。この内容は、学科のAP、CP、DPとの関連を確認しながら教育内容の検討と課程編成を行っている。また、タスクシフト/シェアに関連する新規項目の追加内容に関しては、カリキュラム改正切り替え前の学生には国家試験受験資格要件にも関わるため、厚生労働省の研修を愛媛県臨床検査技師会協力のもと実施した。

3.8 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

はい ・ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

1年次前期に大学で学ぶための基本的な学習スキルや学習態度を具体的な演習（グループワーク）を通して修得する初学者ゼミ、1年次後期に「人間を知る」「社会を知る」「自然を知る」の3領域における科学的思考の文章に親しみ、学問に臨む基礎的態度を養う「基礎ゼミ」を開講し、1教員が10名程度の学生を指導する体制を整えている。さらに、

入学生間の学力の 3 要素の隔たりを軽減し、高大接続をスムーズに行うため、自然科学系の分野において、基礎科学 A (生物)、B (化学)、C (物理) の自由科目を開講している。

3.9 教養教育と専門教育の適切な配置ができていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教養及び豊かな人間性の涵養と医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を目指し、教養科目を 1 年次に多く学修できるように配置している。併せて、臨床検査学への関心を向上できるように、1 年次は教養科目との重なりが多くなり過ぎないように検査の基礎となる科目 8 科目を配置するに留め、1 年前期に臨床検査概論において、各専門領域の概論にふれる科目を設け、2 年次から本格的に臨床検査学が学修できる配置としている。

3.10 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

これまでの取り組みを 3.1 から 3.9 に示しているとおおり、本学臨床検査学科の教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容、カリキュラムの順次性・体系性の確保のほか、授業期間や単位制度も適切に設定されており、学位課程にふさわしい教育内容の授業科目の位置づけがなされ、臨床検査学科に相応しい内容であり、効果的に取り組んでいると考えている。これらのことは、令和 4 年度より、教学マネジメント委員会が教育に関する内部質保証を担うこととなり、教学評価委員会が中心となり本報告書にて報告している。この報告書に基づき課題が示された場合は、学科の教学評価委員会が検討し、学科全体で改善するよう取り組み、その結果を本報告書にして再度提出している。教学マネジメント委員会は、学科長がメンバーとなっており、そこで明らかになった課題を学科に持ち帰り、学科会、学科教授会で報告し、課題改善のための検討を実施している。

※3.7 に令和 4 年のカリキュラム改正に対して、運営戦略会議 (当時、「運営調整会議」) が、学科長を中心とする新カリキュラム作成プロジェクトチームを発足させ、協議を重ねて、令和 4 年度から新カリキュラムに移行した。プロジェクトチームには、運営戦略会議構成員の学部長をオブザーバーとし、運営戦略会議との連携がとれるようにしていた。最終的に新カリキュラム案は運営戦略会議の承認を経て教授会・教育研究審議会に報告した。

3.11 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に

提供されていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

臨床検査学への関心を高めることと、臨床検査技師の多様な活躍の場の実際を知るために医学検査セミナーを配置し、最新の医学研究のほか、非常勤講師による多様な現場で活躍する臨床検査技師の講義を聞く機会を設けている。また、様々な現場に従事する臨床検査技師を知る機会として、臨地実習Ⅰ・Ⅲは中規模病院や大規模病院で働く臨床検査技師について、更に臨地実習Ⅱでは、病院以外の健診施設や研究所における役割を理解できるよう、多くの臨地実習施設を配置している。また、ホームカミングデーや大学で開催している就職セミナーにおいて、卒業生の活躍や進路選択を聞く機会を提供し、学生自身の将来像を早期から描けるようにしている。また、連携協定を締結している愛媛県臨床検査技師会と連携し、技師会の初任者研修や学会に学生も参加させたり、学外講師を招き、臨床検査技師として必要な医学検査に関係する最新のトピックスと生涯学習の重要性について学ぶ機会を設け、臨床検査技師の役割や専門性について早期から学び考えるような工夫をしている。また、愛媛大学や松山大学の医療系学部の学生と一緒に学ぶ機会をもち、お互いの専門性の違いや相互理解を深めた。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学則第25条において各学位課程の特性に応じた1年間又は1学期に履修科目として登録できる単位数の上限を定めており、それに基づいて、学生は各年次に適切に授業科目を履修している。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように学科内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業

評価アンケートの結果は、各担当教員が精査して確認している。また、科目ごとに DP 評価を取り入れ、各科目においても授業内容と成績評価を見直し、シラバスの点検を実施している。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会の取り決めにに基づき、学生の学修状況に応じて DP 等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを配布して周知している。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

はい ・ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

医学検査診断学Ⅰ・Ⅱ等の科目では授業形態にグループワーク等も組み込み、授業中に積極的に参加できる機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、実習では、事前学習課題や予習内容を具体的に提示し、グループで実習課題に取り組んだり、分析結果についての考察を教員と学生間で行ったり、コミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各科目の特徴に合わせて事前課題、小テスト、レポート等を取り入れて、学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

はい ・ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、入学式前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施している。また、在校生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。さらに、学年進行に伴い、単位取得困難な学生や成績不良者はクラス顧問の教員が中心となり、教務委員会と連携しながら個別の履修指導および学習支援を行っている。また、国家試験対策ワーキングを設置し、4年生を対象として計画的な学習支援や成績低迷者への個別指導や補習授業等を実施している。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

はい ・ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

授業での質問には随時フィードバックを行い、演習や実習でのレポート等に対しては、口頭もしくはコメント付記によって、学生の学びのフィードバックを行っている。また、各講義に関しては、予習および復習に必要な標準時間をシラバスに示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、予習・復習の指導を行っている。4年生には、過去の模擬試験やライセンス模試を学生に定期的実施するとともに、補講の資料としても活用し、学びのフィードバックを図っている。

4.8 授業形態に配慮した1授業あたりの学生数を配慮していますか。

はい ・ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

1学年25名程度と少人数であるため配慮する場面は少ないものの、特に演習や実習等、授業内容や形態に応じてゼミ形式や6-7人単位のグループで指導するなど導入し、学習理解を確保できるよう学生数に配慮している。

4.9 各学科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

はい ・ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

4.1 から 4.8 に示した通り、各学位課程の特性に応じた単位の実質化、適切なシラバス改訂と学生への内容周知、学生の主体的参加を促す授業形態や学生の理解度の確認、授業の履修に関する指導、授業外学習に資する適切なフィードバックや適当な学習課題の提示、授業形態に配慮した 1 授業あたりの学生数の配慮等を行い、学生の学習を促すように各科目の授業内容に合わせた取り組みを行い、概ね効果的に実施されている。以上のことは、全学内部質保証推進組織である教学マネジメント委員会に本報告書で報告を行い、課題があれば指摘を受け改善するような仕組みになっている。改善課題に関しては、学科会での共有のほか、教学評価委員会で検討して毎年度改善している令和 5 年度より、年次ごとの学修成果・教育成果データについて、DP 達成度等の確認・分析を行い、学科長より教育マネジメント委員会に報告書として提出している。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価および単位認定は大学の取り決めにに基づき実施している。各科目の成績評価は担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポート等の結果で成績評価が行われている。

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

他大学等での既修得単位については、学測第 30 条に基づいて科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行っている。

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置は講じていますか。

はい ・ いいえ

A2: 従来通り効果的に取り組み始めた

全学的な取り決めに倣い、成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って、講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行

われている。さらに、科目による成績評価の偏りがないように、客観性や公正性、公平性、厳格性のあるさらなる評価法について 2024 年度版学修成果・教育成果データの GP 分布をもとに検討し取り組みを始めている。

※全学的な取り決め：シラバスに成績評価の方法を明示し、これに従って授業の特性に合わせた成績評価を行っている。毎年度、学修成果・教育成果データに学科別 GPA 集計表が示されるため、これをもとに学科で検討を行う。

5.4 卒業要件を明示していますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに加え、卒業要件は学則第 37 条に明示されており、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、卒業要件を口頭でもガイダンスを行っている。また、ホームページにも掲載している。

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的な取り決めの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、全学的な取り決めに添って、5.1 から 5.4 のように実施している。また、全学内部質保証推進組織等の関わりについては、成績評価及び単位認定に関わる内容を本報告書により教学マネジメント委員会に学科の状況を報告し、必要な支援を得ている。

5.6 学位授与に関わる全学的な取り決めの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与に関わる全学的な取り決めの設定は、教務委員会で成績評価及び単位認定について審議後に教授会（教授のみ）で卒業判定を行い、卒業認定および学位授与をしている。全学内部質保証推進組織等の関わりについては、学位授与を適切に行うための措置について、教学マネジメント委員会においても分析している。

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）等を学習成果測定の指標として設定している。

※教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）：学位プログラムとしての単位取得状況、国家試験合格率、GPA 評価、DP アンケート、授業評価アンケート結果、カリキュラム・学習環境等評価アンケートの結果および PROG 調査

6.2 6.1 の設定に基づき評価をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

6.1 の設定に従って評価を行い、全学的な取り決めに基づき学習状況を把握・分析し、授業改善等を行っている。

6.3 ルーブリックを活用した測定をしていますか。

はい ・ いいえ

A2: 改善に取り組めた

ルーブリックを取り入れた評価について、教学評価委員会を中心に学科全体の運用に向けて取り組みを行った。しかし、科目内容に応じたルーブリックの適切性や妥当性について学科全体の方針を検討できていない。現行は、間接的に DP アンケート（各授業科目・年間・卒業時）結果により学習成果を見ている。引き続き DP に基づいた教育の在り方や体制について学科会で議論を行い、評価の観点を明確にした上で、学生と教員が相互に評価の達成度を確認し評価の公平性保持に努めるために、学科全体でルーブリック評価の導入について積極的な取り組みを継続する。

6.4 学習成果の測定を目的とした学生調査をしていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

FD委員会と教学マネジメント委員会がまとめたDPアンケート（各授業科目・年間・卒業時）を実施し、学習効果の測定として用いている。2024年度より、新年度ガイダンスや各科目の初回に、DPについて解説して重要性の理解を促すとともに、アンケート回収率の向上を図った。また、学科独自の取組みとして4年次の初めに、臨床検査技師国家試験対策として学科内で作成した模擬試験を実施し、学生ごとの学習成果を分析している。このような試験は、4年前期に実施される長期の臨地実習前後にも実施し、学生の学習成果を継続的に測定・評価している。これらの結果は、国試対策ワーキングの取組みとして分析し、これまでの学習指導と効果に資するデータとして学科内で共有することで、教育活動の見直しに繋げている。

※国試対策ワーキングの取組み：臨床検査技師国家試験対策として、定期的な模擬試験の実施のほか、全国模試終了後に4年生にアンケートを行い、国家試験勉強の進捗状況、勉強方法、苦手科目などについて調査している。さらに、模擬試験およびアンケート結果を基にクラス顧問、国試対策ワーキング、学科長で連携して個別面談による学習状況の確認を行い、学科全体で補講などの学習支援を実施している。

6.5 卒業生、就職先への意見聴取をしていますか。

はい ・ いいえ

B: 今後、取り組む必要がある。

臨地実習等で就職先と密に関わり、実習打ち合わせや実習施設連絡会議等の場で得られた現場での意見等について学科会等で共有している。また、4年生に対し卒業時にDPアンケートを実施し、DPの到達状況について検討している。また、卒業生の活躍などの情報収集等は、ホームカミングデーに参加している卒業生から得られるものの限定的であるため、多くの卒業生の参加を促す等の工夫や同窓会との連携などを検討し、今後も引き続き行っていきたい。そのため、昨年度に引き続きB評価とした。

6.6 学習成果の把握及び評価の取組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

6.1 から 6.5 に示しているように全学的に実施しているアセスメントプラン等に従って得られた結果を学修成果・教育成果データとして教学マネジメント委員会がFD委員会や教務委員会と協働で分析・作成し、その結果を学科として受け、学科会で共有している。これらの結果は、教学マネジメント委員会から学科での分析・評価を行うように促さ

れており、学科での評価結果は、分析報告書および自己点検報告書として教学マネジメント委員会に提出している。学科に改善課題がある場合は、教学マネジメント委員会から指摘を受けている。また、これらの結果のほか、成績不良者の状況、国家試験の模擬試験の結果なども学科で共有し、学生の特性に応じた指導法や学習成果をあげるための科目間連携の検討、またその効果を測定するための適切な指標の設定を行うことも検討している。全学内部質保証推進組織等の関わりについては、学科長が全学内部質保証推進組織である運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員であることから、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援や指示を得ている。

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

6で示したように学修成果・教育成果の分析を行っており、担当教員が教育の適切性の評価として用いている。令和5年度より設置された教学評価委員会にて、学科における評価を行い、授業改善・向上に向けて取り組むことができた。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

はい ・ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

点検・評価結果に基づく改善・向上については、令和3年度に国家試験合格率が低く、それ以降も100%には及ばない状況や毎年度留年生がいることを踏まえて、学科独自の取り組みとして、学生の単位取得状況や学習態度の情報共有を行って早期から対策するとともに、適切な学習効果等を検討し、学科会で共有する機会を設けている。国試対策ワーキングの解析結果に基づき、模試の成績不良者に焦点をあてた補習等の対策を講じ、2023年度には合格率が改善し5年前の水準に戻った。

今後も学修成果・教育成果データに基づき、教育内容の適切性の評価を行っていくとともに、学科FDとして国試対策ワーキングや教学評価委員会での分析・評価結果も加え、学科で情報共有しながら、引き続き教員主導での教育改善・向上に努めていく。

8 学生の受け入れについて評価や必要な取り組みを行っているか。

8.1 DP の修得に相応しい入学者の確保ができていますか。

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

(一部 A2：改善に取り組み始めた)

卒業時の DP アンケートでの修得状況および各関連科目の GPA は概ね高い結果であったことから、本学科に相応しい入学生の確保がなされていると評価している。4月1日時点の入学定員充足率は1.04、収容定員充足率は1.02 でいずれも適切である。また、就職進路状況、退学率も大きな変化がなく、近年増加傾向にあった留年率は2023年度以降低下している国家試験合格率が100%に至っていないこと、また、2024年度には2名が進路変更を理由に退学しており、一部の学生には DP の修得に相応しい入学生だったのか検討の余地がある。今年度、臨床検査学科では、アドミッションポリシーの見直しとともに、面接の観点について見直し、DP の修得に相応しい入学者の確保に向けた取り組みを行った。基礎学力低下や志向性についても、教育上、苦慮する学生もおり、本学科に相応しいかどうか、DP 修得のみならず、本学科への適性も含めた入学生の確保については継続した検討が必要である。

8.2 学生の受け入れに関する制度について評価・検討をしていますか

はい ・ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

(一部 A2：改善に取り組めた)

令和6年度学校推薦型選抜については、出願倍率3.0倍(令和5年度2.8倍)で、一般入試前期日程は4.4倍(令和5年度2.6倍)で、いずれも目標倍率3倍を達成した。令和6年度には、アドミッションポリシーの見直しに合わせた入試科目の評価視点の整理を行い、臨床検査学科が求める学生像をより明確にするとともに、本学科を志望する者に入学前に身につけることを求める能力を明示し、次年度より公開する予定である。

(2) 全学内部質保証推進組織から示された改善課題に対する対応状況

教学マネジメント委員会から示された改善課題「学位プログラム責任者主導による学習成果・教育の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の仕組みの強化」に関して、学科会で共有し、今後の改善課題の確認を行った。そこで2024年度版学修成

果・教育成果データを基に、学科内で分析し、分析報告書として、学科長から教学マネジメント委員会へ提出した。また、教学マネジメント委員会のメンバーである学科長から、各教員に令和5年度授業評価アンケートおよび授業別DPアンケートの結果を基にシラバスの改善や授業改善に取り組み、各科目のGP分布についても振り返りを行うように依頼し、教育の質保証に努めた。今後はより一層強化するために、学科の教学評価委員会において、今後も引き続きアセスメントプランに基づいたIRを行い、学修成果の可視化に取り組みながら、教育の質を評価していく。

(3) 長所・特色 (学修成果の可視化に関するIRの結果を含むこと)

国家試験合格率は100%に満たないものの、国試対策ワーキンググループの対策により2023年度には合格率が改善した。留年率について、直近3年間で増加傾向にあったが2023年度はやや改善した。就職率100%は達成している。卒業時のGPAは2.79でこの5年間、ほぼ同水準である。また、卒業時DPアンケート結果も90%以上(項目によっては100%)が達成したと回答していた。ただし、2024年度版学修成果・教育成果データには留年生のデータが含まれていないため、引き続き学業不振による留年生の対応を行うことが国試合格率の増加に繋がると考え、引き続き国家試験合格率の向上への取り組みを継続する。DP関連科目群の卒業時GPAの平均は、24カリキュラムより2カリキュラムの方がやや高く、特に「DP⑥：医学検査を通して社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力」が3.0以上で最も高くなった。また、各学年のDP伸長度では、1年生で「DP②：検査データを総合的に解析する力」「DP③：多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力」「DP④：自らの能力を高める自己教育力」「DP⑤：科学的思考力に基づいた学究的態度」「DP⑥：医学検査を通して社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力」において伸びなかったと回答した学生が1割～2割いたが、2-4年生においては全ての項目で、90%以上が伸びたと回答していた。これらのことから、学位プログラムの教育理念は達成され、学びの質が担保されていると考えている。

教育課程やその成果をみる方法は、全学的な取り決めにより実施できている。また、学科として国試対策ワーキングや教学評価委員会が中心となり、学生への効果的な指導や方法について分析・評価を行い、引き続き共有していく。

(4) 課題・問題点

2023年度には2カリキュラムが完成年度を迎え、DPからみた学習効果や体系的なカリキュラムツリー・マップの学生への効果などについては、2カリキュラム卒業生の各DPのGPA評価から、本カリキュラムに関しては全般的に達成されている。2024年度版学修成果・教育成果データでは、1年生では5つのDPで伸びなかったと回答した学生がいた

が、学年進行に伴い減少した。今回の DP 伸長度アンケートは、新年度初めのガイダンスで DP に関する説明を行ったあと、1 年間で振り返ってもらう形で実施したことで回収率も上がり、より DP の理解を進めた形で学生の実態を正確に反映したものになったと考える。

臨床検査学の専門分野について大幅な改正となった令和 4 年度からの新カリキュラム（4 カリ）がスタートし、今後の形成的評価を積み重ねていく必要がある。令和 7 年度には完成年度を迎えることから、DP 伸長度や達成度からみた学習効果や体系的なカリキュラムツリー・マップについて分析が必要である。ルーブリック評価についても取り組みははじめたところであるため、学科内で必要性について理解を進めながら統一した運用を目指して引き続き取り組んでいく。また、コロナ下においてオンライン授業やオンデマンド教材を積極的に活用してきたが、対面授業と比較したメリット・デメリットの分析、有効なオンデマンド教材の使い方については本学の DX への取り組みに従い今後検討していく予定である。

※卒業時 GPA の平均と国試合格率との関連：卒業時 GPA の平均と国試合格率に関連がみられないのは、学修成果・教育成果データに留年生が含まれていないことが挙げられる。学業不振による留年生への対応が国試合格率 100%に繋がると考える。

教育研究環境等整備・学生支援・社会貢献・大学運営

本学は 1 学部・1 研究科でありほとんどの教員が兼任、教育研究環境も共用しているため、学部単独ではなく、学部と研究科を一体とした大学レベルにおいて学内組織が円滑に連携を図りながら、教育研究環境等の整備や学生支援・社会貢献・大学運営を行っている。したがって、これらの項目の自己点検評価の詳細は年度ごと、中期計画期間ごとの自己点検評価結果（業務実績報告書）に記しているが、本学では理事長を中心とする計画的かつ機動的な運営が図られ、外部資金の獲得に努めるとともに、経費削減等による余剰金を目的積立金として老朽化施設の改修や教育・研究機器の整備などに充てられ、必要な経費の効率的、効果的な執行を図ることができている。

教育研究環境等の整備においては、オンライン教育の推進のため、大学のサーバーをクラウドに移行し、学内教育用 Wi-Fi ネットワークを強化して通信環境を整備した。令和 4 年度入学生から ノートパソコンを必携化し、授業や予習・復習に活用するとともに、レポート作成のための教材や国家試験対策問題等のデジタル教材を活用している。R7 年度からはさらに入学生の 2in1PC の必携化を開始するとともに、教員の教育用 PC のフリーアドレス化や教材のデジタル化推進により、より効果的な教育の展開のための環境整備を進めていく計画である。

学生支援では、学生委員会が主導する全学的な学修支援・生活支援・就職支援等に加えて、

学部ではクラス顧問を中心に個別指導・相談に対応し、また、国家試験対策委員を設け、模擬試験の実施や必要に応じて学生が苦手とする科目の補習授業を行うなど、小規模校の特色を活かしてきめ細やかに対応している。

社会貢献では、本学の社会連携・社会貢献に関する方針に従い、地域交流センターが窓口となって全教職員がそれぞれの専門性も活かしながら取り組んでいる。具体的な自己点検評価報告は、毎年の「地域交流センター報告書」に記している。

質の向上に向けた取り組み

教育、学生支援、研究、社会貢献について、概ね順調に進行し、一部を除く高い国家試験合格率の維持、就職決定率 100%を堅持した。より効果的な教育を推進するため、教育環境の整備の推進に取り組んでいる。学内競争的研究費の一定額確保及び科学研究費補助金等の新規採択による研究の活性化、砥部町との連携協定締結による地域住民への貢献、保健福祉関係職研修等への講師派遣の実施、一般県民への公開講座、出張講座などの社会貢献など、多くの面で質の向上に取り組んでいる。